

令和 6 年度

事 業 報 告 書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

第 1	事業報告書	
1	設立目的及び概況 -----	1
2	役員等の状況 -----	2
3	理事会等の開催 -----	4
4	定款の変更 -----	8
5	職員の状況 -----	8
6	事業の実施状況等	
I	事業の実施状況	
(1)	公益目的事業 1 (平和推進事業)	
ア	被爆体験継承普及事業 -----	9
イ	平和意識高揚事業 -----	1 5
ウ	国際平和推進事業 -----	1 9
エ	施設の管理運営 -----	2 4
(2)	公益目的事業 2 (国際交流・協力事業)	
ア	国際交流・協力推進事業 -----	2 8
イ	国際化推進事業 -----	3 1
ウ	ひろしま奨学金支給事業 -----	3 6
(3)	収益事業等	
ア	広島平和記念資料館での収益事業 -----	3 7
イ	広島国際会議場での収益事業 -----	3 8
ウ	広島国際会議場の管理運営 -----	3 8
II	無償使用貸借資産 -----	3 8
III	事業報告の附属明細書 -----	3 8

第 1 事業報告書

令和 6 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書
(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

昭和 51 年 4 月 1 日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は 1, 000 万円（全額広島市出資）であったが、その後 13 億 4, 877 万 2, 897 円を増額し、令和 3 年度～4 年度に 3, 224 万円処分した。現在の基本財産は 13 億 2, 653 万 2, 897 円（うち広島市出資 11 億 7, 424 万 9, 043 円）である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並

びに記念品の製作・販売

(カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託

(キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
副理事長	1 人
常務理事	1 人
理 事	1 8 人
監 事	2 人
評 議 員	1 4 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和6年 4月 1日	理 事	森 川 伸 江	就 任
〃	〃	豊 田 義 政	就 任
令和6年 6月 12日	理 事	竹 井 幸 義	辞 任
令和6年 6月 26日	理 事	家 守 治 司	就 任
令和6年 12月 31日	理 事	宮 原 大	辞 任
令和7年 1月 1日	理 事	中 本 光 哉	就 任
令和7年 3月 31日	監 事	田 口 依 久 夫	辞 任

イ 令和7年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月 11日
理 事 長	香 川 剛 廣	令和 5年 2月 1日
副理事長	谷 史 郎	令和 5年 4月 1日
常務理事	森 川 伸 江	令和 6年 4月 1日

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
理 事	大 芝 亮	平成31年 4月 1日
〃	川 野 徳 幸	平成29年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	家 守 治 司	令和 6年 6月26日
〃	ヒーター・ゴールズベリ	平成23年 4月 1日
〃	高 橋 克 浩	令和 3年 4月 1日
〃	茶 幡 博 子	平成23年 4月 1日
〃	豊 田 義 政	令和 6年 4月 1日
〃	中 本 光 哉	令和 7年 1月 1日
〃	西 本 尚 士	令和 5年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平成23年 4月 1日
〃	畑 口 實	令和 4年 4月23日
〃	東 幸 仁	令和 5年 4月 1日
〃	宮 田 俊 範	令和 2年 2月 1日
〃	村 岡 啓 道	令和 5年 4月 1日
〃	頼 信 直 枝	令和 2年 4月 1日
〃	渡 部 朋 子	平成23年 4月 1日
監 事	田 口 依久夫	令和 5年 4月 1日
〃	廣 江 裕 治	令和 4年 4月 1日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和6年 6月30日	評 議 員	砂子田 淳 子	辞 任
令和6年 7月 1日	〃	中 島 典 子	就 任
令和6年12月31日	〃	森 信 秀一郎	辞 任
令和7年 1月 1日	〃	林 秀 樹	就 任
令和7年 3月17日	〃	栗 原 理	辞 任
令和7年 3月26日	〃	西 村 千賀子	就 任
令和7年 3月31日	〃	若 林 真 一	辞 任

イ 令和7年3月31日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	池 上 忍	平成23年 4月 1日
〃	植 野 実智成	令和元年11月12日
〃	神 谷 研 二	令和元年 7月 1日
〃	鈴 木 由美子	令和 5年 6月28日
〃	多 田 チャントーン	平成23年 4月 1日
〃	中 島 典 子	令和 6年 7月 1日
〃	西 村 千賀子	令和 7年 3月26日
〃	林 秀 樹	令和 7年 1月 1日
〃	古 谷 章 子	平成23年 4月 1日
〃	箕 牧 智 之	令和 3年11月 1日
〃	矢 野 泉	令和 4年 4月 1日
〃	山 田 豊 子	令和 4年 4月27日
〃	山 本 匡	令和 4年 7月21日
〃	若 林 真 一	平成31年 4月 1日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和6年 4月 1日 (決議の省略)	第1回	1 常務理事の選定について（森川 伸江） (第1号議案)	選 定
令和6年 5月28日	第2回	1 令和5年度公益財団法人 広島平和文化センター事業報告及び決算について (第2号議案) 2 公益財団法人広島平和 文化センター評議員会の 開催について (第3号議案) 3 職員の職務に係る倫理 の保持に関する状況及び	承 認 原案可決 終 了

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
		職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第1号) 4 会長、理事長、副理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告について	終 了
令和6年11月15日 (決議の省略)	第3回	1 令和6年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について (第4号議案)	原案可決
令和6年12月23日 (決議の省略)	第4回	1 令和6年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について (第5号議案)	原案可決
令和7年 3月25日	第5回	1 令和7年度公益法人広島平和文化センター事業計画及び収支予算について (第6号議案) 2 被爆80周年平和文化振興基金の制定について (第7号議案) 3 特定費用準備資金取扱規程の制定について (第8号議案) 4 特定費用準備資金の保有について (第9号議案) 5 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第10号議案)	原案可決 原案可決 原案可決 原案可決 原案可決

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
		6 公益財団法人広島平和文化センター令和6年度事業実施状況報告（4～1月分）について （報告第2号）	終 了
		7 会長、理事長、副理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告について	終 了

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和6年 4月 1日 （決議の省略）	第1回	1 理事の選任について （豊田 義政） （第1号議案）	選 任
令和6年 6月 26日	第2回	1 令和5年度公益財団法人広島平和文化センター決算について （第2号議案） 2 評議員の選任について （中島 典子） （第3号議案） 3 理事の選任について （家守 治司） （第4号議案） 4 令和5年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告について （報告第1号）	承 認 選 任 選 任 終 了
令和6年11月19日 （決議の省略）	第3回	1 令和6年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について （第5号議案）	承 認

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和6年12月23日 (決議の省略)	第4回	1 令和6年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第6号議案) 2 評議員の選任について (林 秀樹) (第7号議案) 3 理事の選任について (中本 光哉) (第8号議案)	承認 選 任 選 任
令和7年 3月26日	第5回	1 令和7年度公益法人広島 平和文化センター事業計 画及び収支予算について (第9号議案) 2 評議員の選任について (西村 千賀子) (第10号議案) 3 評議員の選任について (前田 香織) (第11号議案) 4 被爆80周年平和文化振 興基金設置規程の制定に 係る報告について (報告第2号) 3 特定費用準備資金取扱 規程の制定に係る報告に ついて (報告第3号) 4 特定費用準備資金の保 有に係る報告について (報告第4号)	原案可決 選 任 選 任 終 了 終 了 終 了

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

令和7年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
総 務 課		2	2	3	2	5	13	27
施 設 課				1	3			4
平 和 市 民 連 帯 課			1	1	1	2		5
平和首長会議運営課			1	1	3	7	2	14
国 際 市 民 交 流 課		1		1	1	4	7	14
学 芸 課	1	1		1	3	8	8	22
啓 発 課		1		1	3	5	2	12
国 際 会 議 場	1			1	2	3	4	11
国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館	1			1		6	8	16
計	3	5	4	11	18	40	44	125

(注) 局長級に平和記念資料館長、国際会議場館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、部長級に総務部長、参事、国際市民交流担当部長及び平和記念資料館副館長を、課長補佐級に主幹、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査、主任及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員をそれぞれ含む。

6 事業の実施状況等（決算額の一部は人件費を含む）

I 事業の実施状況

（1）公益目的事業1（平和推進事業）

ア 被爆体験継承普及事業

（7）修学旅行生への被爆体験講話等（決算額：2,493万5千円）

- a 学校等の依頼を受け、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者等を対象に、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。また、夏休み期間中に、事前予約不要かつ無料の講話を開催した。

・被爆体験講話等実施件数

区 分	件 数	参 加 人 数
小 学 校	696 (640) 件	50,455 (46,824) 人
中 学 校	237 (220)	24,892 (22,732)
高等学校	145 (135)	20,639 (19,366)
そ の 他	788 (576)	17,799 (14,530)
計	1,866 (1,571)	113,785 (103,452)

※（ ）内は財団委嘱の講師による被爆体験講話で内数

- b 被爆者の記憶に残る被爆当時の光景を後世に残すとともに、若い世代への被爆体験の継承を図るため、証言者と高校生が共同で「原爆の絵」を制作し、完成した作品を被爆体験講話等に活用することになっている。

- ・制作協力校：広島市立基町高等学校
- ・制作数：15作品（令和7年夏に完成予定）

（イ）ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：322万3千円）

平和記念公園内の慰霊碑等のボランティアによる解説を行った。

- ・ボランティア登録者数：187人（令和7年3月31日現在）
- ・活動実績

公園内移動解説：4,180団体（23,127人）

※ 広島平和記念資料館東館2階及び3階で定点展示解説を試行

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：125万1千円）

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、複製したDVD等の貸出しや館内及びホームページでの公開を行った。

・オリジナル版DVD（1本に1名分）

制作本数：3本（累計制作本数：1,151本）

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：0円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、団体相互の情報交換等を行った。

・開催日：令和7年3月13日（木）

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：2万円）

国内の学生等を実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについて理解を深めてもらった。

・受入人数：12人

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：34万円）

市民に、平和の原点としてのヒロシマを見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探究する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

【前期】令和6年5月～7月（全3回、受講者83人）

【後期】令和6年10月～12月（全3回、受講者77人）

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：79万2千円）

原爆・平和写真展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ、ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター・パネルの貸出しを行った。

貸出資料	点数
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	90点
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル	45
計	135

(㌘) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：212万1千円）

中・高校生を対象に、被爆の実相に関する研修等を実施するとともに、他都市の子どもたちとの被爆の実相の学習と対話等を行うヒロシマ青少年平和のつどいを開催した。

- ・期 間：令和6年5月～令和7年3月（全11回）
- ・内 容：① 被爆の実相の研修
② ヒロシマ青少年平和のつどいの開催
③ 県外研修（2泊3日）
- ・参加者：中学生・高校生（55人）

(㌙) 平和学習講座（決算額：23万6千円）

講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。また、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。

- ・登録講師：8人（令和7年3月31日現在）

派 遣 先	回 数
小・中・高等学校	72回
その他	19
計	91

(㌚) 平和記念資料館学習ハンドブック等の作成（決算額：396万9千円）

「広島平和記念資料館学習ハンドブック」、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

- ・作成部数：① ハンドブック 小学校4～6年生用 115,000部
中・高校生用 110,000部
- ② ワークブック 小学生用 85,000部
小学生指導者用 5,000部
中・高校生用 10,000部
中・高校生指導者用 10,000部
- ③ 公園めぐり 132,000部

(㌜) 国内原爆・平和展の開催（決算額：424万3千円）

東北地方2都市において国内原爆・平和展を開催した。

【秋田市】

期 間：令和 6 年 7 月 1 3 日（土）～ 8 月 1 日（木）（17 日間）

会 場：土崎みなと歴史伝承館企画展示室

来場者数：3, 539 人

【郡山市】

期 間：令和 6 年 7 月 1 8 日（木）～ 7 月 3 1 日（水）（12 日間）

会 場：けんしん郡山文化センター展示室

来場者数：2, 452 人

(シ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：50 万 5 千円）

国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆・平和展、平和学習用資料の貸出しを行った。

貸 出 資 料	点 数
D V D 等映像資料	420 点
市民が描いた原爆の絵（複製）、子どもたちの平和ポスター、絵本セット等	412
計	832

(ス) 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施（決算額：673 万 9 千円）

広島平和記念資料館において、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催した。

また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で被爆体験伝承者を派遣し、伝承講話を行った。

さらに、国内外の学校からの予約申込により、ウェブ会議システムを使用したオンラインでの伝承講話を行った。

区 分		件 数	参 加 人 数
日本語での講話		1,539 件	51,033 人
内 訳	定時講話	1,071	11,728
	市内派遣講話	468	39,305
	オンライン講話	0	0
英語での講話		480	8,058
内 訳	定時講話	358	5,430
	市内派遣講話	120	2,596
	オンライン講話	2	32
計		2,019	59,091

(㉔) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,748 万 6 千円）

a 展示による実物資料の劣化防止のため、資料の入替を実施した。

また、所蔵フィルムのデジタルデータ化、レプリカ作製等必要な措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

さらに、貴重なフィルム原板の一部については、長期保存・管理に適した施設に管理を委託した。

b 被爆者証言ビデオについて、デジタル化を推進するとともに、テキストデータ化・多言語化（日本語・英語字幕挿入）を進め、順次ホームページでの公開や YouTube での配信を行った。

(㉕) 被爆資料の収集等の強化（決算額：513 万 1 千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問し、資料の寄贈を受けるとともに、被爆状況の聴き取りを行った。

また、国内外から受領・収集した資料等について、資料の精査及び調査・分析を行った。

・寄贈件数：50 件

b 海外博物館とのネットワークの強化

ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の事前協議及び開催に合わせて、平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について、協議を行った。

- ・訪問先：ホロコースト記念館（アルゼンチン・ブエノスアイレス市）
ESMA 記憶の場ミュージアム（アルゼンチン・ブエノスアイレス市）
マリボル民族解放博物館（スロベニア・マリボル市）
ダッハウ強制収容所記念館（ドイツ・ミュンヘン市）
戦艦ミズーリ記念館（米国・ホノルル市）
パールハーバー国立記念公園（米国・ホノルル市）

(㌥) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：137 万 9 千円）

各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質向上を図ることを目的に、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者、家族伝承者等
- ・内容：総合研修（7 回）、実技研修（話し方講座）（1 回）、（パソコン講座）（2 回）、英語研修（8 5 回）
- ・参加者：延べ 9 5 6 人（内、毎週実施の英語研修は延べ 1 3 3 人）

(㌦) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：456 万円）

常設展示を補完するとともに、再来館の動機づけとするため、また、未公開資料の活用及び資料館の調査・研究成果発表の機会とするため、企画展を年 2 回開催した。

【第 1 回】

- ・テーマ：「新着資料展—令和 4 年度寄贈資料」
- ・期間：令和 6 年 9 月 1 3 日（金）～令和 7 年 2 月 2 5 日（火）

【第 2 回】

- ・テーマ：「ユネスコ「世界の記憶」登録候補 広島原爆の視覚的資料—1945 年の写真と映像」
- ・期間：令和 7 年 2 月 2 8 日（金）～9 月 1 6 日（火）（予定）

(㌧) ユースピースボランティア事業（決算額：94 万 1 千円）

国連主催の研修参加者や各国政府代表者、また、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。

- ・登録者数：１３３人（高校生９３人、大学生４０人）
- ・主な活動実績
 - ① 国連主催の研修参加者、各国政府代表者へのガイド：３回
 - ② 平和記念公園を訪れる外国人観光客へのガイド：１１回
 - ③ 被爆の実相や異文化理解に関する講義等の事前研修：３回

(㊦) 若者によるヒロシマの発信（決算額：５３万３千円）

若者が主体的に被爆の実相を発信できるよう、研修の実施や資料の貸与等による支援を行った。

- ・対象者：主として広島で学生生活を送る大学生（留学生含む。）
- ・参加者数：１１２人

(㊧) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：１６万８千円）

日本平和博物館会議に、平和記念資料館職員３名が参加した。

- ・事務局館：川崎市平和館
- ・開催日：令和６年１１月７日（木）～８日（金）

(㊨) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：１６５万２千円）

広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、常設展示や企画展の充実に資するための基礎的データを蓄積し、博物館機能の強化を図るため、展示環境の調査及び改善等の提案、核をめぐる状況等について、調査研究を行った。

- ・調査・研究テーマ：２件

「平和博物館における文書資料アーカイブズと他機関所蔵関連資料との連関に関する研究」

「資料の吸放湿特性ならびに光触媒による有機酸等の除去に関する予備実験」

イ 平和意識高揚事業

(7) ジュニア向け平和学習用教材の作成（決算額：150万1千円）

小学校3年生以下向けに分かりやすい平和学習用教材を作成した。

- ・作成部数：32,900部

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：133万7千円）

平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、被爆の実相を学ぶとともに、平和へのメッセージを発表するイベントを開催した。

- ・時期：令和6年8月6日（火）
- ・場所：広島国際会議場 フェニックスホール
- ・来場者数：約1,200人

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：168万7千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励し、その活動を活性化させることにより、子どもたちの平和意識の高揚を図った。

- ・参加者数：6,410人
- ・内容：平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作等）を行った学校からの申請により、参加者全員に記念品を贈呈した。

(エ) スポーツを通じた平和意識の醸成（決算額：30万円）

広島東洋カープやサンフレッチェ広島など広島のプロスポーツチームの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信し、市民の平和意識の高揚を図った。

a ピースナイターの開催

- ・時期：令和6年8月14日（水）
- ・場所：MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
- ・内容：① 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映
② 広島東洋カープの監督、選手等のユニフォームへのピースワッペンの装着 等

b ピースマッチにおけるピースアクティビティへの支援

- ・時期：令和6年8月1日（木）

- ・場 所：エディオンピースウイング広島
- ・内 容：場外ブースでの被爆の実相に関するパネル展示、平和学習資料の配布等

(オ) 平和文化の普及促進（決算額：975万4千円）

核兵器廃絶に向け、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え、行動する「平和文化」を市民社会に根付かせ、平和意識を醸成する取組を実施した。

a 平和文化月間におけるイベントの開催等

広島市が「平和文化月間」と定めた11月を中心に、市民が主体となったイベント等を集中的に実施した。

① 平和文化月間オープニングイベント

- ・時 期：令和6年10月26日（土）
- ・場 所：広島国際会議場
- ・来場者数：約120人
- ・内 容：平和とスポーツをテーマとしたトークショー
（登壇者：森崎 和幸氏、森崎 浩司氏、枘田 絵理奈氏）

② 市民平和文化イベント～ヒロシマから平和の輪を広げよう～

- ・時 期：令和6年11月3日（日）
- ・場 所：紙屋町シャレオ
- ・来場者数：約1,200人
- ・内 容：若い世代を中心とした平和の取組のステージ発表・展示発表

③ みんなで伝え合おうヒロシマ・ナガサキ～広島の会2024～（市民団体との共催事業）

- ・時 期：令和6年12月7日（土）
- ・場 所：広島平和記念資料館
- ・参加者数：約250人
- ・内 容：広島・長崎の被爆者の思いを伝える朗読を中心としたステージ発表

b 広島広域都市圏と連携した集客促進及び広報

広島広域都市圏と連携し、イベントカレンダーや啓発用グッズを通じて平和文化月間の周知を図る等、圏域の住民や旅行者等による圏域の周遊を促す取組を実施した。

c 広告媒体を活用した啓発活動の実施

平和大通りへのバナー掲出、市内中心部や広島駅等の人通りの多い地点への啓発ポスター掲出等を行った。

d 年間を通じた取組

年間を通じて、市民一人一人に平和について考えてもらう機会を提供するため、平和文化をテーマとしたワークショップの開催等に取り組んだ。

(カ) 機関紙の発行等（決算額：369万8千円）

- a** 市民の平和意識醸成とともに、国際世論の形成の形成に寄与するため、和文・英文機関紙を発行するとともに、事業報告「平和と交流 2024年版（令和5年度事業）」を作成し、ホームページに掲載した。

・内 容：和文機関紙 4回 各5,000部
英文機関紙 2回 各2,000部

- b** 本財団の活動に関する情報等をホームページを活用して適宜提供した。
・ホームページアクセス件数：318,318件

(キ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用

（決算額：655万3千円）

a 広島平和記念資料館ホームページ

広島平和記念資料館のホームページで、原爆・平和に関する情報を発信するとともに、ホームページの多言語化を行った。

・アクセス件数：1,972,084件
・内 容：資料館の利用案内、展示内容の紹介

b データベース

原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部をホームページで公開した。

・公開件数：102,762件
・内 容：資料館が所蔵・管理する被爆資料、写真、絵、動画等

(ク) 情報資料室の管理運営（決算額：212万4千円）

原爆・平和に関する資料・情報の収集・保存を行い、市民等の閲覧に供した。

- ・利用者数：6, 453人

ウ 国際平和推進事業

(7) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：8万8千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、長崎市、（公財）長崎平和推進協会及び朝日新聞社との共催により開催されたシンポジウムに出席した（広島市と長崎市で交互に開催）。

- ・時期：令和6年7月27日（土）
- ・場所：長崎原爆資料館ホール
- ・参加者数：約980人

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：46万2千円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。

- ・時期：令和6年10月30日（水）～11月1日（金）
- ・受入人数：27人（国連随行者2名を含む。）

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：0円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、訪中団を派遣する予定であったが、同協会からの申出により中止となった。

(エ) 海外へのオンライン被爆体験証言（決算額：32万7千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・実施回数：6か国11都市・13回
- ・聴講者数：478人

(オ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：134万8千円）

原爆・平和展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

〔ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターの貸出・提供〕

区 分	点 数	国・地域数（実数）
英語	47 点	19 か国・地域
日本語	5	5
ドイツ語	3	2
フランス語	2	2
イタリア語	1	1
計	58	29

〔映像資料等の貸出・提供〕

区 分	点 数	国・地域数（実数）
映像資料（DVD）等	82 点	14 か国・地域
ポスター用データ等	27	11
計	109	25

（カ）ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催（決算額：1,394万9千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、海外の主要都市において原爆・平和展を開催した。

〔アルゼンチン・ブエノスアイレス市〕

- ・期 間：令和6年10月2日（水）～11月3日（日）
- ・場 所：リベルタ宮殿
- ・入場者：7,438人

〔スロベニア・マリボル市〕

- ・期 間：令和6年12月3日（火）～令和7年2月28日（金）
- ・場 所：マリボル民族解放博物館
- ・入場者：5,340人

（キ）「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：4万6千円）

国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。

同講座に認定された大学に対しては、認定時における教材の提供や被爆体験証言者への謝礼金の負担等、講座の充実に向けた協力を行った。

・認定大学数：国内 54 大学、国外 25 大学（令和 7 年 3 月 31 日現在）

※ うち、令和 6 年度に創価大学を認定

(ク) ヒロシマ平和研究教育機構の運営（決算額：40 万円）

ヒロシマ平和研究教育機構キックオフシンポジウムを開催した。

- ・時 期：令和 6 年 7 月 14 日（日）
- ・場 所：広島平和記念資料館メモリアルホール
- ・参加者：約 180 人

(ケ) 核兵器禁止条約推進国との連携（決算額：268 万 4 千円）

核兵器禁止条約推進国であるアイルランドを訪問し、関係強化を図った。

- ・時 期：令和 6 年 10 月 22 日（火）～26 日（土）
- ・場 所：アイルランド・ダブリン市
- ・内 容：アイルランド議会上院でのスピーチ、アイルランド大統領との面会、原爆・写真ポスター展オープニング及び平和首長会議加盟セレモニーへの出席等

(コ) 国連ユース非核リーダー基金プログラムへの協力（決算額：41 万 2 千円）

日本政府の拠出により国連が設立した国連ユース非核リーダー基金のプログラム参加者を受け入れ、被爆の実相を伝えるとともに、若者と交流するプログラムを実施した。

- ・時 期：令和 6 年 8 月 28 日（水）～8 月 29 日（木）
- ・受入人数：49 人

(カ) 平和首長会議の運営（決算額：967 万 3 千円）

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・内 容：① 未加盟都市への加盟要請
- ② 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの公表
- ③ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言の送付
- ④ メールマガジンの発行
- ⑤ 平和首長会議情報システムの運用保守 等

- ・ 平和首長会議加盟都市数：１６６か国・地域８，４７２都市
(令和７年３月１日現在)

(シ) 平和首長会議の活動展開（決算額：４，９４９万円）

令和３年７月に策定した「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」（略称：PXビジョン）の三つの目標の下で、併せて策定した２０２５年までの行動計画に掲げる取組を進め、平和を構築していくための世界的な活動展開を図った。

a 第１１回NPT再検討会議２回準備委員会への出席

- ・ 期 間：令和６年７月２０日（土）～７月２７日（土）
- ・ 場 所：スイス・ジュネーブ市
- ・ 内 容：NGOセッションでのスピーチ、国連・各国政府関係者並びに関係NGOとの面会、サイドイベントの開催等

b 核兵器禁止条約第３回締約国会議への出席

- ・ 期 間：令和７年３月２日（日）～３月８日（土）
- ・ 場 所：米国・ニューヨーク市
- ・ 内 容：一般討論でのスピーチ、国連・各国政府関係者並びに関係NGOとの面会、サイドイベントの開催等

c 第１２回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催

- ・ 期 間：令和７年１月１６日（木）～１７日（金）
- ・ 場 所：東京都武蔵野市
- ・ 内 容：若い世代への平和学習の展開（申合せ）、国内加盟都市の取組事例の報告等

d 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開

区役所等へ署名箱を設置するとともに、平和首長会議ホームページやソーシャルメディアを通じて署名の呼び掛けを行った。

署名数：３，２６３，５７５筆（令和７年３月１日現在）

e 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布

被爆樹木の種・二世の苗木の配布、説明標識の配布等を行った。

配布実績：（国内）１９都市

（海外）７か国・１５都市

f 次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発

平和首長会議加盟都市による取組の好事例をメールマガジンやホームページで紹介するとともに、こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテストを実施した。

【こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト 2024】

- ・募集期間：令和6年4月23日（火）～10月31日（木）
- ・参加国数・都市数：21か国123都市
- ・応募総数：4,208点

(入) 平和首長会議インターンシップ（決算額：198万円）

平和首長会議の国内外の加盟都市から若手職員等を広島に招へいし、各加盟都市との連携強化を図るとともに、インターンシップ終了後にそれぞれの都市において取組の推進を図った。

また、国内加盟都市の職員を対象にオンライン研修を初めて開催し、各自治体における活動の活性化を図った。

【海外加盟都市インターンシップ】

- ・期 間：令和6年6月19日（水）～7月3日（水）
- ・参加者：2名（ボスニア・ヘルツェゴビナ・サラエボ市、ニュージーランド・タスマン市）

【国内加盟都市インターンシップ】

全国的な大雪による交通機関への影響等を考慮し、中止した。

【国内加盟都市職員を対象としたオンライン研修】

- ・期 日：令和6年7月3日（水）
- ・参加者：41都道府県209自治体229人

(セ) 平和教育ウェビナーの開催（決算額：40万9千円）

平和首長会議の国内外の加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し、意見交換するオンラインセミナーを開催した。

- ・期 日：令和7年2月18日（火）
- ・発表者：8名

(7) **NPT再検討会議等への高校生派遣事業**（決算額：701万8千円）

NPT再検討会議第2回準備委員会に高校生を平和首長会議ユースとして派遣し、国連関係者に核兵器禁止条約の早期締結を求める署名を届け、ヒロシマのメッセージを発信するとともに、あわせて平和人材としての育成を図った。

- ・派遣期間：令和6年7月20日（土）～7月28日（日）
- ・派遣先：スイス・ジュネーブ市
- ・派遣人数：高校生8人

(8) **第13回平和首長会議理事会の開催**（決算額：927万4千円）

英国・マンチェスター市で第13回平和首長会議理事会を開催し、令和7年に長崎市で開催する第11回平和首長会議総会の運営方針や今後の取組等について審議した。

- ・期間：令和6年10月27日（日）～10月31日（木）
- ・場所：英国・マンチェスター市

(9) **第11回平和首長会議総会の準備**（決算額：4万3千円）

令和7年8月に開催する第11回平和首長会議総会の円滑かつ効果的な運営に向け、各種準備を進めた。

エ 施設の管理運営

(7) **国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営**（決算額：3億2,717万7千円）

厚生労働省からの受託事業として、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営を行った。

- ・入館者数：466,270人

（平成14年8月の開館以降の入館者数：5,774,101人）

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者の氏名・遺影を登録し、館内で公開した。

- ・原爆死没者氏名・遺影の登録状況（令和7年3月31日現在）

氏名・遺影	氏名のみ	計
25,191人	3,132人	28,323人

b 被爆体験記の収集・整理・公開

被爆体験記を収集・整理（データベース化）し、館内で公開した。

・被爆体験記の収集・整理状況（令和7年3月31日現在）

区 分	収集数	整理数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記(H7)(注1)	81,203 編	81,203 編	100.0%
厚生労働省収集分被爆体験記(H17)(注1)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H27)	11,396	11,066	97.1
独自収集分被爆体験記(注2)	3,736	3,723	99.7
図書（被爆体験記集等）	(6,183 冊)	42,795 (3,110 冊)	(50.3)
計	—	150,565	—

(注1) 厚生省収集分被爆体験記(H7)及び厚生労働省収集分被爆体験記(H17)：厚生省(当時)及び厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

(注2) 独自収集分被爆体験記：平成9年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

c 企画展の開催

- ① テーマ「暁部隊 劫火へ向カヘリ ―特攻少年兵たちのヒロシマー―」
 - ・期 間：令和6年3月1日(金)～令和7年2月28日(金)
 - ・内 容：暁部隊の特攻少年兵が救護へ急行した死の街広島で何を見て、何を感じたのかを通じ、彼らの心情に迫るとともに、被爆の実相を明らかにする(シアター映像の上映及び暁部隊関連資料等を展示)。
- ② テーマ「受け継ぎ、語り継ぐ ―広島の惨禍と被爆者の思い―」
 - ・期 間：令和7年3月7日(金)～令和8年2月28日(土)
 - ・内 容：被爆80周年を念頭に、原爆被害の全体像に迫るため、主に5つのテーマ(「被爆時の惨状」「地域社会と家族の崩壊」「長期的・持続的な障害」「精神的・心理的打撃」「次世代への伝言」)に沿った複製体験記を設置し、被爆者のことばを通して被爆の実相を伝える。

d 被爆者証言ビデオの制作

広島県外在住被爆者の証言映像を収録し、保存するとともに、館内やインターネット上で公開した。

- ・県外在住被爆者収録者数：11人
(福岡県2人、大阪府3人、岐阜県2人、千葉県1人、東京都3人)

e 被爆体験記の朗読事業

(a) 修学旅行等で広島を訪れた児童生徒を対象に、被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。

また、広島市内の学校等へ出向く出前朗読会や、来館者が事前予約不要かつ無料で参加できる定期朗読会を開催した。

- ・朗読会開催回数：151回

(b) 独自での朗読会を希望する団体等に、朗読セットの貸出しを行った。

- ・朗読セット貸出件数：13件

f 平和学習講習会でのPR

広島市と広島市教育委員会が共同で行う平和学習講習会において、学校関係者等に対し、伝承講話・朗読会の実演を行う等被爆体験継承の取組を説明し、PRを行った（リモート1回、東京都1回）。

g 被爆体験記執筆補助

高齢等により一人では執筆が困難な被爆者を対象に、被爆体験の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・聞き取り人数：5人（広島県内在住の被爆者を対象に公募）

h 多言語化対応事業

海外からの来館者に、被爆の実相を母国語で伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。

- ・証言ビデオ

翻訳字幕作成本数：7言語11本〔累計：25言語1,364本〕

- ・被爆体験記

翻訳編数：3言語44編〔累計：24言語1, 481編〕

i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

被爆体験証言者、被爆体験伝承者、被爆体験記朗読ボランティア、家族伝承者及び原爆体験伝承者（東京都国立市が養成）を国内外に派遣した。

- ・証言講話実施回数：38回（8回）
- ・被爆体験伝承講話実施回数：539回
- ・家族伝承講話実施回数：39回
- ・原爆体験伝承講話（国立市）実施回数：25回
- ・朗読会実施回数：30回（2回）

※（ ）内は国外派遣の実施回数で内数

j インターネットによる情報提供

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業内容をホームページで紹介するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して広く情報提供した。

- ・アクセス件数：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ホームページ
511, 114件
平和情報ネットワーク 3, 489, 565件

k 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性の確保を図るため、情報展示システムの保守・管理を行った。

l 施設の管理等

空調等の自動制御設備機器の取替え等、各種設備機器の保守管理をはじめとする施設の管理運営を行った。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営（決算額：4億3,325万7千円）

令和4年度からの5年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

令和5年のG7広島サミットや昨今の厳しい国際情勢を背景として、これまで以上に広島平和記念資料館への関心が高まる一方、館内が混雑していることから、令和6年2月から運用開始したwebによるチケット購入・予約システムの継続や、令和6年3月から開始した開館時間の延長、令和6年7月の券売機の設置等により、混雑対策と来館者サービスの向上に努めた。

・入館者数

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	1,744,273 人	1,579,687 人	164,586 人
小 人	520,270	188,412	331,858
計	2,264,543	1,768,099	496,444

(ウ) 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：14万9千円）

(2) 公益目的事業2（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（決算額：107万5千円）

市民レベルの多文化共生及び国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している市民団体が自主的に企画・実施する国際交流・協力事業や多文化共生事業に対して、次のとおり助成を行った。

区 分	助成団体数
広島市内で行う多文化共生、国際交流・国際協力の推進を目的とする事業（次の場合を除く）	7 団体
広島市内で行う国際交流・国際協力の推進を目的とする事業（広島市と姉妹・友好提携等に関する協定を締結している都市から青少年を招致して人的交流を行う場合）	1 団体

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（決算額：156万4千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりを進めた。

また、国際市民交流課のホームページを活用し、加入団体の活動情報等を発信した。

- ・内 容：加入団体への情報提供、研修室・ボランティア活動コーナーの貸出し等
- ・加入団体数：140団体（令和7年3月31日現在）
- ・研修室貸出し件数：799件

(ウ) 国際フェスタの開催（決算額：339万8千円）

市民の多文化共生や国際交流・協力に対する関心を高めるとともに、市内の国際交流・協力活動団体間の交流を促進する、「国際フェスタ 2024」を開催した。

- ・期日：令和6年11月24日（日）
- ・場所：広島国際会議場、平和大通り緑地帯
- ・内容：
 - ① 主催者、共催者事業
ミャンマーにルーツのある俳優 森崎 ウィン氏を講師とするトークショー（JICA中国）等全38事業
 - ② 公募企画事業
ひろしまを英語でガイド（平和のためのヒロシマ通訳者グループ）等全9事業
 - ③ 公募3事業
活動紹介展示（参加14団体）、国際協力バザー（参加9団体）、世界の屋台（参加13団体）の3事業
以上、全50事業を実施
- ・主催：本財団（国際市民交流課、国際会議場）
- ・共催：独立行政法人国際協力機構中国センター、広島市
- ・参加団体：68団体
- ・来場者：約2,000人

**(I) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営
（決算額：244万9千円）**

a 姉妹・友好都市の日「記念イベント」の開催

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに設定した「姉妹・友好都市の日」に、市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と

国際意識の高揚を図った。

① 大邱の日

- ・期 日：令和6年5月3日（金）～5月5日（日）
- ・場 所：ひろしまフラワーフェスティバル会場
- ・内 容：セレモニー、「剣舞」、「サルムノリ・ヨンナムノンアク」、
大邱広域市の紹介・展示、韓国家庭料理の実演販売等
- ・参加者：約4,000人

② ハノーバーの日

- ・期 日：令和6年5月12日（日）
- ・場 所：ひろしまゲートパーク 大屋根ひろば
- ・内 容：セレモニー、ドイツ・ハノーバー市の紹介、ソーセージやバ
ウムクーヘン等の試食、ドイツ音楽コンサート等
- ・参加者：約180人

③ モントリオールの日

- ・期 日：令和6年7月7日（日）
- ・場 所：広島駅南口地下広場
- ・内 容：セレモニー、カナダ・モントリオール市の紹介、音楽コンサ
ート、メイプルシロップやモントリオールスタイルベーグル
等の販売等
- ・参加者：約160人

④ 重慶の日

- ・期 日：令和6年10月19日（土）
- ・場 所：広島市留学生会館 2階ホール等
- ・内 容：セレモニー、中国・重慶市の紹介、青少年交流の活動報告、
和紙ちぎり絵や中国ボタン等の制作体験コーナー、古箏や変
面のパフォーマンス等
- ・参加者：約140人

⑤ ホノルルの日

- ・期 日：令和6年11月10日（日）

- ・場 所：広島駅南口地下広場
- ・内 容：セレモニー、ハワイ・ホノルル市の紹介、ウクレレコンサート、ハワイアンバンドの生演奏とフラのパフォーマンス等
- ・参加者：約 2 5 0 人

※ ボルゴグラードの日については、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中で、市民の理解を得ることが難しいこと等から、令和 5 年度に引き続き開催を見送った。

b 「ヒロシマ・メッセンジャー」の募集・選考

「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案・進行を担当するほか、学校の国際理解学習の講師等として活動する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集・選考した。

- ・募集期間：令和 6 年 9 月 1 日（日）～ 10 月 3 1 日（木）
- ・選考人数：姉妹・友好都市ごとに各 2 人、計 1 0 人
（ボルゴグラード市の募集は行わなかった。）
- ・任 期：令和 7 年 1 月 1 日（水）～ 1 2 月 3 1 日（水）

イ 国際化推進事業

(7) 国際交流専門員による国際交流事業の実施（決算額：14 万円）

a 派遣事業

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校や広島市の関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に国際交流員を派遣した。

- ・派遣回数：1 回

b 対話事業

国際交流員及び多文化共生講座講師（外国人）により、市民と自由なトピックで対話する「Have a Chat!」を、対面及びオンラインで開催した。

- ・実施回数：2 4 回（対面 1 2 回、オンライン 1 2 回）
- ・参加人数：延べ 1 5 4 人（対面延べ 1 0 4 人、オンライン延べ 5 0 人）

(1) 情報紙の発行（決算額：9 万 3 千円）

多言語の生活情報紙「Hiroshima NOW」を作成・配布し、外国人市民の生活に役立ててもらった。また、これらの情報をウェブサイトでも提供した。

- ・作成言語：やさしい日本語、英語、スペイン語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語
- ・発行数：月1回発行、各言語80部
- ・配布先：広島市関係機関、広島市内の日本語ボランティア教室、広島県内国際交流団体等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：25万2千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、関係機関との連絡会議や地域国際化協会の研修会等に参加した。

その他、関係する二国間団体の総会等に参加し、意見交換等を行った。

(イ) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：30万7千円）

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない市民を支援するため、通訳ボランティアを募集・登録し、必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所等行政機関や学校、国際的会合等に派遣した。

a 派遣事業

- ・派遣数：47件、延べ70人

b 研修事業

- ・期 日：令和7年2月1日（土）
- ・内 容：語学研修 英語
通訳としての心構え・倫理研修
- ・参加者：15人

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：2,660万3千円）

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない外国人市民等に対して、多言語で対応できる相談窓口を開設し、窓口や電話での相談、生活関連情報の提供、行政機関への同行通訳等を行うとともに、広島出入国在留管理局職員による在留資格等に関する専門相談を月1回（第2金曜日）実施した。

また、ウェブサイトを活用して8言語（やさしい日本語、英語、スペイン

語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ポルトガル語）で生活関連情報の発信を行った。

さらに、ウクライナ避難者を支援するため、ロシア語・ウクライナ語通訳者の手配を行った。

- ・対応件数：981件（相談：509件、通訳342件、翻訳130件）

a 相談窓口

- ・対応言語：スペイン語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、フィリピン語

※ その他の言語については、翻訳タブレットを活用するほか、他団体等と連携し対応

- ・開設場所：広島国際会議場3階 国際市民交流課内
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日、年末年始、8月6日を除く）
フィリピン語のみ第1及び第3水曜日並びに金曜日
午前9時～午後4時

b 巡回相談

- ・安芸区役所区政調整課内：月2回（ポルトガル語、スペイン語）
- ・市営住宅基町管理事務所内：月1回（中国語）

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：651万3千円）

外国人市民の日本語能力向上のための日本語講座等を開催するとともに、地域の日本語教室を担うボランティアの育成やスキル向上のための講座等を実施した。

a 日本語教育コーディネーター（総括コーディネーター1名、地域コーディネーター2名）の配置

- ・期間：令和6年4月～令和7年3月

b 入門レベルの日本語講座の開催

(a) 春期講座

- ・期間：令和6年5月9日（木）～7月25日（木）全22回
- ・受講者：14人

(b) 秋期講座

- ・期 間：令和6年10月1日（火）～12月17日（火）全22回
- ・受講者：10人

(c) ウクライナ避難者に対する少人数日本語講座

- ・期 間：適宜（各世帯40時間）
- ・受講者：1世帯1人

c 日本語教育関連事業

(a) 「やさしい日本語」連続講座

[夏期講座]

- ・期 日：令和6年8月25日（日）、9月1日（日）、9月8日（日）
- ・受講者：延べ55人

[冬期講座]

- ・期 日：令和7年1月24日（金）、1月31日（金）、2月7日（金）
- ・受講者：延べ115人

(b) 日本文化体験講座

- ・期 日：令和6年8月24日（土）
- ・内 容：世界の人たちと一緒に「藍染ワークショップ」
- ・参加者：18人

(c) 外国人による多文化共生講座 講師養成研修

- ・期 日：令和6年6月2日（日）、6月16日（日）、6月30日（日）
- ・内 容：プレゼンテーション作り、発表練習
- ・受講者：6人（講師登録 5人）

d 日本語ボランティア養成講座（Ⅰ～Ⅲ）

(a) 養成講座Ⅰ 初級レベル（日本語ボランティア活動経験のない方）

- ・期 間：令和6年9月27日（金）～10月25日（金） 全5回
- ・受講者：23人

(b) 養成講座Ⅱ 中級レベル（日本語ボランティア歴1～2年の方等）

・期 間：令和6年5月16日（木）～6月27日（木） 全7回

・受講者：21人

(c) 養成講座Ⅲ 上級レベル（日本語ボランティア歴3年以上の方等）

・期 間：令和6年5月13日（月）～6月24日（月） 全7回

・受講者：11人

e 地域の日本語教室立ち上げへの支援

日本語ボランティア養成講座修了者等が新たな地域の日本語教室を立ち上げる際に、ノウハウや必要な教材等を提供した。

・1件

f 広島市日本語教室ネットワーク会議の開催

(a) 第1回

・期 日：令和6年6月23日（日）

・内 容：日本語ボランティアスキルアップ講座、情報提供

・参加者：51人（19教室）

(b) 第2回

・期 日：令和7年2月4日（火）

・内 容：地域日本語教室ボランティア間の意見交換、情報提供

・参加者：25人（15教室）

(き) 外国人市民のための生活ガイドブックの作成（決算額：106万円）

広島市に転入する外国人向けに、日常生活に必要な行政サービスや生活関連情報をまとめた「外国人市民のための生活ガイドブック」を作成（時点修正）し、広島市及び本財団ホームページで公開した。

また、二次元コードを読み込むことで外国人市民のための生活情報サイトに繋がり手軽に情報を入手することができるリーフレット版「外国人市民のための生活ガイドブック」を作成し関係機関に配布した。

・作成言語：日本語、英語、中国語、スペイン語、ハンガール、フィリピン

語、ベトナム語、ポルトガル語（８言語）

- ・作成部数：９，２００部

(ク) 災害時の外国人市民支援に係る研修の実施（決算額：23万9千円）

a 外国人市民のための防災研修会

外国人市民の防災意識を高めるため、外国人市民を対象に地域コミュニティでの防災研修を行い、地域特有の災害リスクへの認識を深めた。

[第1回]

- ・期 日：令和6年9月29日（日）
- ・場 所：広島市留学生会館
- ・内 容：防災に関する講義や展示、非常食の試食
- ・参加者：25人

[第2回]

- ・期 日：令和7年3月2日（日）
- ・場 所：可部公民館
- ・内 容：防災に関する講義や展示、非常食の試食
- ・参加者：11人

b 災害通訳等ボランティア研修会

広島市が運営する災害通訳等ボランティアを対象に通訳・翻訳の能力を高めるための研修を行った。

- ・期 日：令和7年2月8日（土）
- ・内 容：語学研修 英語

災害時の外国人支援概要

- ・参加者：14人

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,177万5千円）

(7) ひろしま奨学金の支給

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生が、経済的な問題に影響されることなく、安心して学業に専念できるよう奨学金を支給した。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

(イ) 奨学生を対象とした平和学習

被爆の実相や核兵器廃絶に向けた取組を学ぶとともに、ヒロシマを発信する活動を積極的に行ってもらうことにより、「平和」を通じた国際交流の推進を図った。

- ・期 日：令和 6 年 7 月 2 0 日（土）
- ・受講者：3 0 人

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：1 億 9,429 万 5 千円）

(7) 出版事業

「広島平和記念資料館総合図録 - ヒロシマをつなぐー」（日本語版）

- ・増刷部数：5, 0 0 0 部

「広島平和記念資料館総合図録 - ヒロシマをつなぐー」（英語版）

- ・増刷部数：5, 0 0 0 部

「写真集ヒロシマ」

- ・増刷部数：1 0, 0 0 0 部

「英文原爆戦災誌」

- ・増刷部数：5, 0 0 0 部

「広島平和記念資料館ガイドブック」（日本語版）

- ・増刷部数：1 0, 0 0 0 部

(イ) 販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

常設展示や遺品等の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

- ・解説言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、タイ語、アラビア語、インドネシア語、フィリピン語、ウクライナ語（1 5 言語）
- ・貸出件数：1 7 7, 9 5 1 件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：800万5千円）

臨時売店等での飲食等の販売、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファックスサービス、ケータリングの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億8,669万5千円）

令和2年度からの5年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

[ホール及び会議室の利用状況]

区 分	貸出可能 区分数	利 用 区分数	利用率	利用件数
	区分	区分	%	件
フェニックスホール	1,077	361	33.5	159
国際会議ホール（ヒマワリ）	1,077	374	34.7	185
大会議室（ダリア）	2,154	848	39.4	334
中会議室（コスモス）	2,154	966	44.8	323
小会議室（ラン）	2,154	872	40.5	352
会議運営事務室	1,077	584	54.2	340
計	9,693	4,005	41.3	1,693

（注）利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合。

Ⅱ 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たり、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

（令和7年3月31日現在）

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館 （東館）	広島市中区中島町 1番2号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	広島市中区中島町 1番5号	建物	事務室等 434.54 m ²

Ⅲ 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。